裾野麗峰山の会山行報告書

文・後藤、ＧＰＳ・村山

山行番　　ＮＯ．１５４６

日　時　　２０１３．０５．０４（土）快晴

山　域　　青海（おみ・おおみ）黒姫山（１２２２ｍ）

コース　　ホワイトクリフ発７：１５―糸魚川―清水倉登山口発８：１０―標高８００ｍ９：５０―頂上岩稜１１：２５―黒姫山１１：１０～１２：２０―登山口１４：５０―白馬・民宿「はばうえ」（泊）１７：００

標高差　　上り・下り　登山口１００ｍ～青海・黒姫山１２２２ｍ＝１１２２ｍ

参加者　　後藤隆徳（６６）、村山忠彦、石和加代子、田内保子、諏訪部豊＝５名

昨日見えなかった雨飾山がホワイトクリフの食堂から大きかった。今日は昨日以上素晴らしい天気。車で糸魚川に下る途中、フキを取ったら持ち主がいて怒られてしまった。（笑）今年は４月以降低温でフキを始め、昨日の駒ヶ岳の花も遅かった。そんな訳でもないだろうが、地元もイライラしているかも知れない。

日本海沿いに進み港町で左折し、青海川を遡ると黒姫山の石灰岩の大岩壁に目を奪われた。青海川を渡った産廃処理場脇が駐車場だがいささか狭い。先行者はオジサンが１名。登山者かと思ったら、実は後で分かったことだが、コース整備を期間１万円で雇われている地元の方だった。

登山道は最初から急登。いささか昨日の疲労が残り足は重い。それでも今日は片栗が多く励まされる。 途中、巨大な石灰岩が登山道を塞いでいた。３０Ｃｍくらいの樹木がボッキリ折れていた。

青海・黒姫山

今日も急登

コース整備の
オジサン

折れ口はまだ新しかったので最近だろうか？それにしても大きな岩だ。先ほどのオジサンが休んでいた。雑談で情報交換。「青海」は、道路標識は omi だが、地元では oomi だった。この辺の山菜は遠慮なく取っていいよと言ってくれた。この山は地元の共有林とのこと。

コースはこの上から、北に大きくトラバースする。まだ雪解けから間もなく、倒木が多く潜ったり、越えたり難儀した。下ばかり気にしていたら、倒木にボコンと頭を強打し血が滲んでしまった。白髪の私は、それが「茶髪に染めた」と皆にからかわれた。ま、怪我は大したことなく良かった。

トラバースを終え、標高８００ｍでコースは北面となり雪が出て来た。ここでアイゼンを装着。まだ時間が早く雪が締まっているので歩き易い。少し上ると大きな断崖があった。これをこなすと頂上に至る雪田（せつでん、注・１）に出た。

巨大落石

内院みたいな雪田

後方は日本海と右手に

姫川港

この先でようやく頂上が見えた。雪田の上は石灰岩の岩稜が頂上に向かっていた。ここでアイゼンをデポする。石灰岩の岩稜は岩角が鋭利で気を使った。一旦、少し下って頂上に達した。まだ、仲間は誰も来なかった。

頂上にはコンクリ製の社があった。傍らには一等三角点の標柱がある。頂上は一等三角点に相応しい展望だった。すぐ傍に明星山、東に火打・焼山・雨飾、東南に戸隠、南に白馬連峰、そして北に日本海が広がり、左手は能登半島だった。

それにしてもこの山は一体何だろう。「山高きが故に尊からず」（注・２）の格言がある。標高はたったの１２２２ｍ。静岡東部なら愛鷹連峰の大岳（１２６２ｍ）程度。しかし、この標高差・高度感・展望度・開放感・重厚感・存在感・静寂度・・・。イイ山だった。

全員が上り昼食。記念写真を撮って下山。雪田に単独が上って来た。後で軽トラのナンバープレートが富山の方だった。「厳しいですね～。２時間半の予定だったのに・・・」とぼやいていた。（エエ～、標高差が１１００ｍもあるのに、それはないだろう）（ちょっと甘いね～）「そうですか、アハハ」と笑って見送った。

雪山の下山は早い。ルート整備のオジサンが印した赤ペンキが真新しく、倒木を切ってくれたので歩き易かった。それにしても赤ペンキがチト多過ぎるのではオジサン？？！！。花は午後の陽光を浴びて満開だった。中でも菊咲一華（キクザキイチゲ）は素晴らしかった。

途中、別の地元のオジサンに会った。話好き、親切で山菜をいろいろ教えてくれた。美味しい「コゴミ」（草蘇鉄・くさそてつ）が沢山生えていたが、すでに遅かった。また、この辺りは春になると福寿草が沢山咲くそうだ。ここの湧水で喉を潤した。

駐車場に戻り辺りの「フキ」を取って白馬に向かった。途中、いつもの酒屋に寄った。ここの主人はスキーで有名な方。レジの壁に「ある山で滑っている写真」がある。Ｓさんに何処か当てさせたが分からなかった。宿で教えるだったが話すのを忘れてしまったので、ここで正解を教えよう。（注・３）

白馬の民宿「はばうえ」着。ここは一昨年、針ノ木の時泊まったなかなか良い宿。特にご飯が美味しい。宿の裏で作っている最高級のお米だ。

夜は蛭子能収似の宿の主人とスキー談義に花が咲いた。このオヤジさん、ムコさんだが相当のスキー道楽。奥様は白馬のクロスカントリーの選手だったそうだ。

片栗

菊咲一華

青海・黒姫山

一等三角点

黒姫山山頂

バックは火打山

山菜のオジサン

民宿「はばうえ」

スキー談義

「はばうえ」ご夫婦

民宿「はばうえ」

注・１＝雪原と同じ

注・２＝山はただ高いから尊いのではなく、木が生い茂っているからこそ尊いのと同じように、人間も外見だけが立派でもそれは尊いとは言えず、実質が外見に伴って始めて価値があるものだという教訓。

「たっとい」は「とうとい」の古風な言い方で、「たっとからず」は「たっとい」に打消しの「ず」が付いたもの。「尊からず」とも書く。

平安時代の教訓書『実語教』に「山高きが故に貴からず、樹有るを以て貴しと為す。人肥えたるが故に貴からず、智有るを以て貴しと為す（山はただ高いだけでは貴いとは言えず、そこに木が生い茂っているからこそ貴い。人も体が大きいだけで立派だとは言えず、知恵を持つからこそ貴い）」とあるのに基づく。・・・関連ＨＰ

注・３＝屋久島